

# 学校だより

7月号

横浜市立六つ川台小学校

令和8年6月25日



Daista☆

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

E-mail: [ky-e-mutudai@city.yokohama.jp](mailto:ky-e-mutudai@city.yokohama.jp)

## 自分にできることから始めて

校長 宮崎 里子

今年は「梅雨らしい」梅雨を迎えています、雨の日も美しく咲くアジサイに気持ちがあがります。

6月23日(火)南公会堂で「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が行われ本校からは6年生の代表児童が参加しました。以下スピーチの文章を掲載します。

全ての人の幸せのために自分ができること

六つ川台小学校 代表児童

皆さんは、福祉について知っていますか。知っている人はどんなことを知っているのでしょうか。

私は、去年、母が働いている福祉施設にお祭りのボランティアとして友達と参加しました。そこにはいろいろな楽しい方たちがいて私も友達もとても楽しかったし、ボランティアという立場で大人の方たちと同じことができることが嬉しかったです。

そんな中、何かを一緒にしたくても、お話をしたくても、共通していることがなかったり、相手の方が会話をすることが難しかったりすることもありました。どうすればいいかわからず、焦りや不安でいっぱいでした。

でも、工夫をすればなんだって難しくありません。言葉を、ゆっくり話したり、紙に書いたりして、コミュニケーションをとることができました。そのとき、私は今まで関わることがないと思っていた方たちと関わることができ、ことにワクワクしました。一緒にいられることが嬉しかったです。

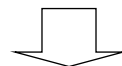
この経験から、福祉は何か特別なことをするのではなく、困っている人の生活のサポートをしたり、応援しながら手を差し伸べたりすることだと思いました。

また、私の母が、福祉の福は幸福の福で、全ての人が幸福になるためにできた言葉、と言っていたことを思い出して、私も全ての人が幸せになるお手伝いを自分からやってみたいと思いました。私の場合、両親が福祉に関係している仕事をしています。福祉の現場にとっても近い環境なので、機会があれば積極的にたくさんの方に会いに行こうと思うようになりました。

私はどんな人でも自分で好きなことをしたり、どこかへ行ったりして、幸せな生活をするべきだと思います。そのためには、一人一人が意識を変えてできることをしていく必要があると思います。

例えば、この世界の身近なところに、障害がある人がいる、困っている人がいる、そう思いをはせるだけでもいいと思います。一人一人が困っている人に常に寄り添おうという意識をもったり、全ての人が暮らしやすくなるために相手の立場に立ってできることを考えたりすることで、世界は温かくなり、より幸せになると思います。私自身、そういった思いをもって生活していきたいです。

皆さんにも自分にできることを考えて、沢山の人の笑顔の花を咲かせてほしいと思います。



「どんな人でも自分で好きなことをしたり、どこかへ行ったりして、幸いせな生活しあわをするべき」胸打たれる言葉せいかつです。  
教育きょういく振興しんこう基本計画きほんけいかくにも「ウェルビーイングの向こう上じょう」が明記めいきされていますが、私わたしはいつも宮沢賢治みやざわけんじの「世界せかいが  
ぜんたい幸福こうふくにならないうちは個人こじんの幸福こうふくはあり得えない」という言葉ことばを思い出おもします。  
個人こじんも、世界せかいも。どちらも豊ゆたかで幸しあわせになるために考かんがえることはたくさんありそうです。けれど「自分じぶんにできる  
ことことばから始はじめて」の言葉ことばに勇気ゆうきをもらい、私わたしも行動こうどうを起おこそうと思います。